

造船統計速報(平成26年3月分)

平成26年5月28日
総合政策局情報政策本部
情報政策課交通経済統計調査室

本速報は、造船の生産等実績の早期把握に資するため、基幹統計「造船造機統計」の造船調査対象工場のうち主要工場の主要項目の生産等実績について先にとりまとめ速報化したものである。確報値は追って公表される「造船統計月報」を参照されたい。

1. 概況

平成26年3月分の造船主要53工場の鋼船受注・建造実績は、受注43隻、145万6千G/T、起工24隻、85万9千G/T、しゅん工41隻、164万9千G/T、しゅん工船価1,697億円、生産指数(※)98.4であり、生産指数の前年同月比は、9.2%減であった。

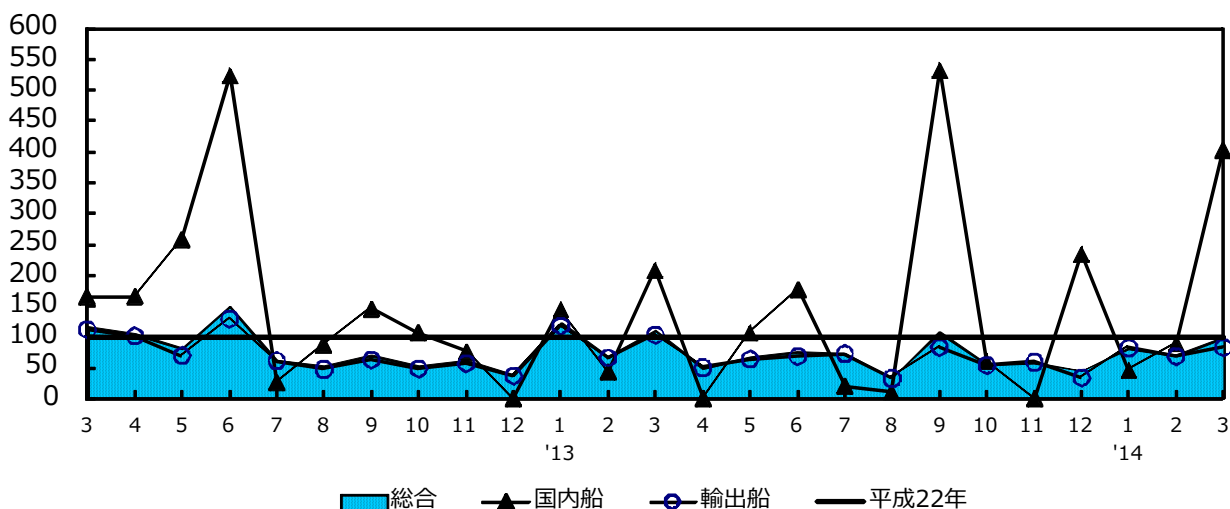
このうち、国内船のしゅん工実績は、合計7隻、24万4千G/T、生産指数402.2であった。内訳は、貨物船は3隻で、そのうち一般貨物船が1隻、鉱石専用船が1隻、ばら積船が1隻であった。客船は2隻であった。油送船はプロダクトキャリアが1隻であった。漁船は1隻であった。

また、輸出船のしゅん工実績は、合計34隻、140万5千G/T、生産指数83.2であった。内訳は、貨物船は31隻で、そのうち一般貨物船が7隻(パナマ、キプロス等向け)、ばら積み船が13隻(パナマ、サウジアラビア等向け)、コンテナ船が2隻(マーシャル諸島、パナマ向け)、鉱石兼ばら積み船が8隻(パナマ、シンガポール等向け)、木材兼ばら積み船が1隻(パナマ向け)であった。油送船はLPG船が2隻(パナマ向け)、化学薬品船が1隻(マーシャル諸島向け)であった。

鋼船修繕実績は、126隻、工事金額179億円であった。

2. 生産指数の推移

生産指数の推移 平成22年(2010) = 100



注1 本速報における国内船及び輸出船は船舶の発注者の国籍により区分される。
 注2 平成26年1月分調査より「受注」を調査事項として追加し、その結果を公表している。
 ※ 生産指数は、当該月のしゅん工船価(合計)を、基準時(平成22年)のしゅん工船価(合計)の月平均値で除して求めた指数である。本速報の生産指数は、主要工場分のみの速報値である。

お問い合わせ先：
 総合政策局情報政策本部情報政策課交通経済統計調査室
 電話：03-5253-8111 FAX：03-5253-1567
 担当：石橋(内線：28-742) 浪川(内線：28-743)

3. 鋼船建造実績

(単位：隻、G/T、千円、 指数：平成22年平均=100)

用途別		受注		起工		しゅん工				
		隻数	G/T	隻数	G/T	隻数	G/T	船価	生産指数	前年同月比
合計		43	1,456,289	24	858,512	41	1,649,250	169,663,883	98.4	90.8
国内船	小計	4	74,599	2	48,100	7	244,177	32,978,677	402.2	—
	貨物船	1	2,999	1	32,100	3	233,864	20,980,051	—	—
	貨客船	0	0	0	0	0	0	0	—	—
	客船	0	0	0	0	2	5,577	..	—	—
	自動車航送船	0	0	1	16,000	0	0	0	—	—
	油送船	2	69,900	0	0	1	746	..	—	—
	漁船	0	0	0	0	1	3,990	..	—	—
	その他	1	1,700	0	0	0	0	0	—	—
輸出船	小計	39	1,381,690	22	810,412	34	1,405,073	136,685,206	83.2	—
	貨物船	29	1,230,290	20	799,012	31	1,386,117	130,921,781	—	—
	油送船	10	151,400	2	11,400	3	18,956	5,763,425	—	—
	その他	0	0	0	0	0	0	0	—	—

※ 結果表中の「..」については、秘密保護上公表しないものである。

※ 受注後にキャンセルが発生した場合は、その隻数及びG/Tについて受注隻数、G/T欄の右横に[]書き(外数)で表示する。

4. 鋼船修繕実績

	隻数		工事金額(千円)	
合計	112	(14)	15,399,080	(2,534,740)
国内船	86	(14)	14,340,689	(2,534,740)
外国船	26	(0)	1,058,391	(0)

※ ()内は、排水トン表示による船舶で、外数である。